

滋賀医大病院ニュース 第31号 (2011/6)

著者	滋賀医科大学広報委員会
発行年	2011-06
URL	http://hdl.handle.net/10422/2120

病院長補佐のご紹介



医師臨床教育センター長 太田 茂

私は、医師臨床教育センター長を勤めさせて頂いております。このたび4月1日から附属病院長柏木厚典先生の御指示により病院長補佐を勤めさせて頂くこととなりました。

小生の部署は、研修医のみを対象とすると思われがちですが、実は所轄担当範囲には、
※後期レジデントの方々も入ってきます。最近ことにいろいろな部署で上がってくる問題の一つにプロフェッショナリズムの欠如という問題があります。今年は新採用研修医に対するオリエンテーションの一環としてプロフェッショナリズムについてのワークショップを行いました。これは※KJ法を使用したバズセッション(少人数のディスカッション)で将来、どのような医師をめざすかというものです。附属病院という場所には多数の職種があり多数の方々が働いておられます。このためついつい「私1人がどんなであっても患者さんとは関係ないだろう。」という雰囲気になることがあるかもしれません。

また、いろいろな部署別の固有の問題点もあることと存じます。職場におけるプロフェッショナリズムの形はいろいろです。とあるシンポジウムでは病院のテーマとして「みかん1個も貰わない」というものをプロフェッショナリズムとしてあげておられた病院もありました。私たち一人一人が患者さんの前ではいわば病院を代表する“存在”となります。ですから、病院内の職場においてはその部署にふさわしいプロフェッショナリズムの形がいくつもあるはずです。

病院の各部署の構成職員がいわば病院を代表するプロフェッショナルな心を持って患者さんに接してゆき“よりよい病院”を目指してゆきたいと願っております。何卒、宜しくお願い申し上げます。

◆後期レジデント◆

医師免許を取得後、2年間の初期研修を経て、後期研修中(3年程度)の医師をさします。

初期研修が医師法第16条などに2年間と期間を限定されているのに対して、後期レジデント期間は病院によりまちまちで、さらに診療科によってもいろいろです。

◆KJ法◆

出席者が各自カード等(3等分できるカードで紙は何でもよい)の最上段に意見を書き、2段目、3段目が未記入のカードを隣のメンバーへまわします。まわってきたカードの2段目以降に思いついたことを書きます。そして書き終わったカードを切り離し、みんなの意見をまとめていく手法で、ワークショップなどに用いられます。



東日本大震災での DMAT（災害派遣医療チーム）活動報告

3月11日に発生した大災害は我々が経験したことのない甚大な被害をもたらしました。この災害により被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。

3月11日発災直後より、全国の日本DMAT隊員の携帯電話には大災害発生のお知らせと被害状況、待機要請が次々と発信され、出動準備を整えることとなりました。発災数時間後には滋賀県から公立甲賀病院DMATと近江八幡総合医療センターDMATが先発隊として陸路被災地に出発。滋賀医科大学DMAT（松山医師、佐伯看護師、梅村看護師、吉田情報員、五月女）は発災翌日の3月12日に伊丹空港から自衛隊輸送機に医療資機材とともに乗り込み、いわて花巻空港で広域医療搬送のためのSCU活動を3月14日まで展開しました。阪神・淡路大震災の教訓から、被災地の医療資源不足を日本全体でカバーする目的で広域医療搬送システムが構築され、DMAT教育・訓練が実施されてきたことから、今回の大災害はDMAT活動の有用性を検証することにもなったといえます。



花巻空港には関西圏のDMATが集結し、消防や自衛隊と協力してSCU活動（空港拠点広域搬送医療ステーション）が行われました。空港周辺は地震による建造物倒壊等はありませんでしたが、電気・水道・ガス等のライフラインは寸断されておりました。津波被害の大きかった沿岸部被災地では壊滅的なダメージを受けた病院が多く、圧倒的多数の傷病

者に対して適切な医療の提供が困難となりました。その結果、ヘリコプターや救急車で花巻空港に重傷者を集結させ、自衛隊機で羽田空港や秋田空港に搬出することが今回の災害におけるDMATの主要活動と位置づけられました。もちろん前線の病院支援にあたったDMATもあり、機動力を生かした活動が展開されました。本災害のように陸路移動が困難な災害の場合、ヘリコプターによる傷病者搬送は最も効果的であったといえます。全国からドクターヘリが出動し、沿岸部からの傷病者搬送に活躍されました。

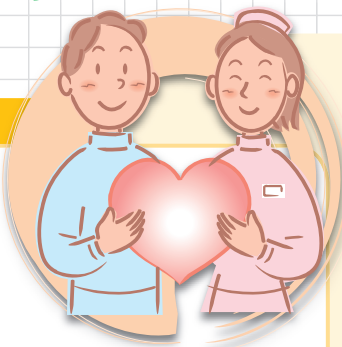
滋賀医科大学DMATは3月13日には航空機格納庫内に特設したSCUで傷病者の治療にあたりました。祖父母が自分の手をすり抜けて津波に流されていった骨折を負った高校生や、脳出血のためと思われる意識障害の傷病者を処置し、自衛隊機で広域医療搬送しました。3月14日には副統括DMATとして、SCU全体のコントローラーの任務にあたりました。情報が錯綜するなかDMAT活動を統制できたことは良い経験となり、今後のチーム活動にプラスになることと思われます。



災害はその規模、形態により医療ニーズを左右するものです。本災害は地震・津波・放射線という多重災害の様相を呈し、各分野の医療チームがその時々が必要に応じて現在も活動されています。滋賀医科大学DMATも短期間ではありましたが本災害の医療活動の一助になったことと思っております。

第4回「まごころ職員大賞」の 受賞者が決定しました

医療サービス課



「まごころ職員大賞」とは、職員の患者サービス・接遇意識の向上を啓発することを目的に、患者さんやご家族の方々から「対応が良かった」等とご推薦をいただいた職員を表彰する制度です。

第4回は、平成22年4月1日～平成23年2月28日までの期間実施いたしました。ご推薦いただいた職員は数十人にも及びましたが、その中から、第4回「まごころ職員大賞」の受賞者を決定しました。

受賞者 浜崎 恵さん（看護部 副看護師長）

受賞できて、大変うれしく思います。
これからも、患者さんの力になれる
ようにがんばりたいと思います。
ありがとうございました。



受賞式では、柏木病院長から
表彰状と記念品が贈られ、ねぎ
らいの言葉がかけられました。

これからも、心あたたまる医療の提供を目指し、患者サービス・接遇向上に向け
た取組を実施してまいります。

滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する全人的医療」

●理念を実現するための 基本方針

- 患者さん本位の医療を実践します
- 信頼・安心・満足を与える病院を目指します
- あたたかい心で最先端の医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 世界に通用する医療人を育成します
- 健全な病院経営を目指します

滋賀医大病院ニュース第31号

編集・発行：滋賀医科大学広報委員会

〒520-2192 大津市瀬田月輪町

TEL: 077(548)2012(企画調整室)

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。